



Special issue

進化する融合型グローバル教育

～ニューノーマル時代における国際交流の新たなカタチ～

甲南大学の国際交流の歴史は古く、1976(昭和51)年の「甲南・イリノイセンター」開設にさかのぼります。同センターは、大学全学のエデュケーション、学習における国際交流を促進する「国際交流センター」に改組され、外国語教育全般を担う機関として1994(平成6)年に開設された「国際言語文化センター」とともに甲南大学の国際化を推進しました。また、2015(平成27)年より、国際社会で求められる「グローバル人材」の素養の涵養を目的に、「融合型グローバル教育」を掲げ、国際交流の新拠点・グローバルゾーン“Porte(ポルト)”の新設などをはじめ、グローバル教育の推進に努めてきました。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響下においても、オンライン留学など新たな制度を設け、世界とつながり学びたいという学生の意欲を後押ししています。今号では、これまでの国際交流の歴史を振り返りつつ、ニューノーマルな時代に対応し進化する本学のグローバル教育の取り組みを紹介します。

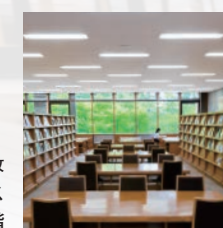
KONAN TODAY

2021 | No. 60
Autumn

CONTENTS

- 01 特集
進化する融合型グローバル教育
～ニューノーマル時代における国際交流の新たなカタチ～
- 08 History
- 05 Presents
- 07 Action
- 09 特集「働く」を考える
変化していく就職することの価値観。
重要なのは、自らのキャリアについて、
主体的・能動的に考え行動すること
- 10 [甲南大学キャリアセンター]
各々の個性と時代の変化をふまえ、
十人十色の未来を支援する
- 11 学生の声を聞いてみました
知能情報学部 知能情報学科 寅巴里 アーデルさん
法学部 法学科 藤井 佑香さん
法学部 法学科 山崎 友輔さん
- 13 なるほど!甲南アカデミア
文学部 人間科学科 教授 北川 恵
**「大人が守ってくれる」
その安心感が子どもの発達を支えます**
- 15 さまざまな分野の第一線で活躍する卒業生
It's KONAN Style
プロGPSランナー 志水 直樹 さん
- 17 高中 Topics
[甲南高等学校・中学校 馬術部]
苦境を乗り越えチームワークで手にした5年ぶりの団体優勝
[甲南リサーチフェア]
自分で調べて仮説を立て、人に説明し、
人から評価され、改善していく
- 19 KONAN TOPICS
- 21 甲南大学開学70周年記念行事のお知らせ
- 22 新任退任教職員紹介
- 23 特集「人生100年時代の学び」履修証明プログラムがスタート
**重ねた経験が、学びの源泉に。
新たな人生が動き出す、リカレント教育**
- 27 岡本ぶらり 第9回
自然に包まれ深呼吸。岡本発、ロング散歩のすすめ
- 29 KONAN FORUM
課外活動成果報告／新刊一覧 ほか

裏表紙 Retrospective of 70 years



表紙の1枚
岡本キャンパス
図書館2階

History

2021

2021

新たにオンライン留学制度を整備
9月より協定校等に限った留学(送り出し)を一部再開

2020

ウィーバー州立大学(アメリカ)と
ダブルディグリー協定締結
コロナ禍の影響により、留学中の学生に
帰国や渡航中止を指示。その代替として
オンライン版留学プログラムを提供

2017

国立聯合大学(台湾)と交流開始
2017度より外国人留学生
(正規留学生)受け入れ開始
2018年度は4名が入学

2015

国際交流の拠点
グローバル・ゾーン(Porte)を開設

2009

短期留学体験型プログラム
「エアスタディーズ」を立ち上げ
東海大学・国立台北大学(台湾)、
北京郵電大学(中国)と交流開始

2010

2011
厦門大学(中国)、
慶熙大学校(韓国)等と
交流開始

2006

「留学のための英語集中コース」が発足
奨励留学開始。欧米圏協定校拡大

2005

漢陽大学校(韓国)と
交流開始

2001

「国際言語文化科目」を開設

2000

1998

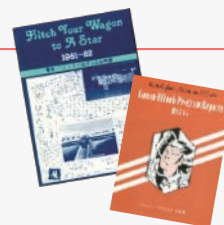
ハワイ大学マノア校(アメリカ)との
夏期日本語短期集中講座開始

1976 「甲南-イリノイプログラム(Year-in-Japan Program)」がスタート

イリノイ大学をはじめとするアメリカ各地の大学に所属する大学生が、日本での約9か月間のホームステイを通じて、日本の文化・社会などの生きた姿を理解し、本学での諸活動へ参加することにより、相互交流を行うプログラム。留学生はホストファミリーと寝食をともにし、交流を深めました。1978年には本学からイリノイ大学への短期留学プログラム「甲南-イリノイ夏期英語講座」が開始されました。その後、イリノイコンソーシアムとして、イリノイ大学に加え、ハワイ大学マノア校・ピッツバーグ大学・アリゾナ大学(いずれもアメリカ)が加盟校となりました。現在、「甲南-イリノイプログラム」は「甲南大学イヤー・イン・ジャパンプログラム(Konan University Year-in-Japan Program)」と名称を変え、1976年以降現在に至るまで本学で運営を行っています。



「甲南-イリノイプログラム」の
ウェルカムパーティーの様子



☆☆
Pick up

思い出が凝縮された
「甲南-イリノイプログラム」の報告書
「Hitch Your Wagon to A Star」

1983年に行われた「甲南大学-イリノイ夏期英語講座」は報告書によると、大阪国際空港(伊丹空港)から成田国際空港を経由して、アメリカへ出発。イリノイ大学への授業料や寮費など必要経費は日本円に換算し、約35万円(当時1ドル=240円)に。ほかにも現地視察や観光などの航空運賃や宿泊料は合算して約55万円ほどかかり、約2か月間の滞在で約90万円だったそう。

☆☆
Pick up あじさいの一む

留学生が集うあじさいの一む。「あじさい」は神戸では「市民の花」として親しまれ、この名が付けられたと言われています。写真は3号館2階に国際交流センターがあった時のもの。現在あじさいの一むは2号館1階のPorte内に設置されています。



1978

英語力の向上を目標とした
2か月間の短期留学プログラム
「甲南-イリノイ夏期英語講座」がスタート。
第1回の参加者27名が出発。

1978

ディスコブーム

1971

日本マクドナルド
1号店・銀座で開業

1970

ジャンボジェット機
初就航

※内容は一部抜粋し掲載(当時の内容含む)。
現在は上記内容を一部変更している場合があります。

1990年代～ 協定校の拡大

マードック大学(オーストラリア)、
リーズ大学(イギリス)、
ビクトリア大学(カナダ)、
ニューヨーク州立大学
バッファロー校(アメリカ)等と
交流開始

1990

国際交流センター設置

1994

国際言語文化センター設置
(全学の外国語教育を担う機関)

1990

1982

イリノイ大学(アメリカ)と
学生交換協定締結。
最初の長期留学生1名が同大学に留学。

1976

国際交流の拠点となる「甲南・イリノイセンター」開設
「甲南-イリノイプログラム
(Year-in-Japan Program)」がスタート。
第1期留学生21名が来日。

1970

Column

1970年ころ 当時の日本社会は……。

Fashion

ヒッピー族にベルボトム
ミニスカートの流行

60年代後半にアメリカの若者の間で生まれた“ヒッピー”ムーブメント。既成概念に縛られた社会を否定する価値観は日本の若者にも支持され、ファッションではベルボトムが流行。同じころ日本で初めてミニスカートが発売されブームに。



World

海外渡航の自由化
高額!?だった海外旅行

日本人の海外渡航が自由化されたのは1964年。当時発売されたハワイ9日間のバック旅行が約36万円で、現在の物価に換算すると約400万円と、いかに高額だったかがわかる。このころ、金融機関には海外旅行代金の積み立て預金があったほど。

Culture

ビートルズにツイッギー、
海外文化がブームを起す

法被姿でタラップからビートルズが来日したのは1966年、日本武道館で初のロックコンサートは5公演で約5万人の観客を集めた。また「ミニの女王」イギリスのファッションモデル ツウィッギーの来日はミニスカートの流行に拍車をかけた。

甲南の国際交流 /



歴史をひもとく

イリノイ大学と結んだ絆を始まりに
世界の大学と積極的に交流を広げる

甲南大学の国際交流の歴史は、1976年にイリノイ大学(アメリカ)と「甲南-イリノイプログラム Year-in-Japan Program」を開始し、「甲南・イリノイセンター」を開設したことに端を発します。ファッションや音楽、食など、さまざまな海外文化が日本に流入してきた1970年代に始まった国際交流の歴史を年表形式でご紹介します。



現状に迫る

「融合型グローバル教育」の今に迫る

コロナ禍を経て、新たなステージを迎えた

甲南ならではの融合型グローバル教育

世界を襲った新型コロナウイルス感染症は、学生たちの海外留学や学びの場にも大きな影響を与えました。甲南大学は、この状況をどのように乗り越えたのでしょうか。中井学長に、これまでの歩みと挑戦、さらに「KONAN U.VISION 2025」が見つめる未来についてお話を伺いました。

学部に関係なく、すべての学生が

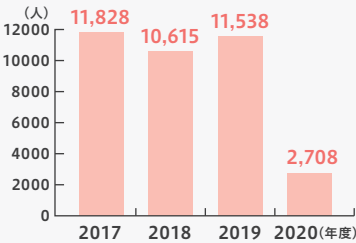
グローバルに活躍できる力を養うために

本学は、創立者・平生鈆三郎が掲げた建学の精神「世界に通用する人物たれ」に基づき、グローバルに活躍する人物教育に力を注いできました。他大学にしばしば見られる国際系学部が存在しないのも、学部を問わずグローバル教育が必要だという考えによるものです。2015年からは、長坂悦敬前学長（現理事長）のリーダーシップのもと、その理念をさらに明確化して推進。各学部で身につける専門知識を柱に国際力や行動力をプラスして多様な分野で活躍できる能力を育成する「融合型グローバル教育」を目標に掲げ、全学を挙げて取り組んでまいりました。留学をサポートする国際交流センター、全学の外国語教育を担う国際言語文化センター、学部を横断したプログラムの策定を行う共通教育センターの「融合」も図り、すべての学生が世界と出合える環境と機会を拡充。その象徴ともいえる学内留学空間グローバルゾーン「Porte（ポルト）」では、留学生との交流を楽しむ中で外国語を学ぶアクティビティやワークショップを、活発に開催するとともに1年次の英語授業とも連携し、

グローバルゾーンの利用状況

交換留学生や留学経験のある学生と自由に交流したり、英語によるアクティビティを通じて語学力の向上、異文化理解が促進できる岡本キャンパスのグローバルゾーン「Porte（ポルト）」は、毎年延べ約10,000人前後の利用者を数えます。2020年度は新型コロナウイルスの拡大によりオンラインアクティビティへの切り替えなどがあり減少しています。

利用者数(推移)



アフターコロナも視野に入れた

オンライン留学と国際交流プログラム

コロナ禍においては、国際交流プログラムのオンライン化を急ピッチで進めてまいりました。カナダやアメリカの協定校による3～8週間程度の授業を海外の学生とともに受講する「オンライン留学」、短期留学体験を行う「オンラインエリアスタディーズ」の実施が、その代表例です。さらに甲南大生と海外協定校学生が参加するオンラインワークショップや海外協定校学生を対象とした日本語オンラインホームステイプログラムも開催。その他にもグローバルゾーン発のプログラムとして各学部の教員が海外経験を語る「Professor's Café」、国際的に活躍するゲストを招く「グローバル★ツナガルCafé」、海外協定校の学生と日本語で交流する「日本語Café」など、多様な切り口から英語や異文化を学ぶイベントを行っています。

当初は、リアルな留学の代替策としてスタートしたオンラインによる国際交流プログラムでしたが、履修カリキュラムの都合で長期滞在の困難な理系学部の学生が通常の講義を受けながら海外の大学の授業を体験できたり、岡本キャンパスで開催されることの多い各種アクティビティに西宮やポートアイランドキャンパスの学生が気楽に参加できたりと数々のメリットが明らかになってきました。アフターコロナにおいても渡航する留学に加えて、場所や時間による制約の



誰もがキャンパスにいながら異文化に触れる環境を整えています。

また、「HOP・STEP・JUMP」の段階別留学制度で留学をサポートする独自のプログラムを実施。学内で留学生と触れ合い、言語や文化を教え合う「HOP」に始まり、1週間から2週間程度、海外を訪問する「エリアスタディーズ」など短期留学に参加する「STEP」を経て、3か月から最長2年間の中長期留学に挑戦する「JUMP」へ…。無理せず成長できる段階を設けるとともに、それぞれの体験に「KONAN グローバルサティフィケイト」のポイントを付与して認証し、一人ひとりの学ぶ意欲を高めています。

少ないオンライン留学も選択肢の一つとして活用し、グローバル教育のさらなる充実・向上に役立てる方針です。

よりアカデミックに、より挑戦しやすく、

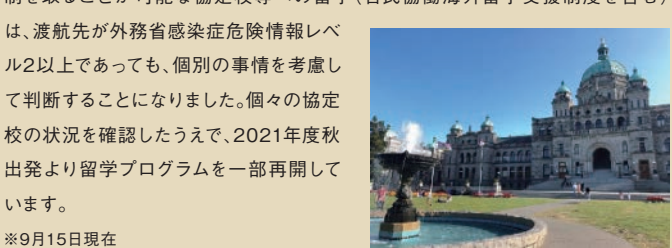
「F・I・T なリユ・カツ」がめざす未来。

甲南新世紀ビジョン「KONAN U.VISION 2025」を策定し、「融合型グローバル教育」はさらなる発展の段階を迎えました。中長期留学に現地学生とともに専門科目を受講する「交換留学」、語学力を伸ばした後に現地の学部授業に合流する「語学プラス交換留学」、最短3か月から半年間、語学を中心に学ぶ「奨励留学」に加え、2016年より本学独自の協定校に、JSAF（日本スタディ・アブロード・ファンデーション）の認定校留学先約120校を拡充し、一人ひとりの興味や目的、能力に応じた留学を選択できる体制が整っています。

今後も、学内外やオンラインでの国際交流プログラム、短期留学やオンライン留学などを充実させ、「F・I・T なリユ・カツ（留学活動）」を全力でサポートしてまいります。「F・I・T」とは、「Flexible（フレキシブル）・Individual（インディビジュアル）・Timely（タイムリー）」の略であり、段階別留学制度のもと、すべての学生が自分に合う（F・I・T）する留学のカたちを見つけてほしいという願いを込めたことばです。また、外資系企業や海外の大学院進学などハイレベルな進路をめざす学生を対象にウィバーバ州立大学（アメリカ）に2年間留学して卒業要件を満たせば、最短4年半で同大学と本学の学位を取得できるダブルディグリープログラムを開設。現在は、経済学部のみが対象ですが、順次他学部にも拡大する方針です。さらにホスピタリティやアートなど特定の領域を学べる「専門スキル留学」（仮称）も実現に向けて準備中です。所定の入学試験に合格し、本学で学位を取得する正規留学生も少しずつ数を伸ばし各学部で活躍しています。学びを止めず、現状に満足することなく常に次代を見つめて甲南のグローバル教育は、これからも進化します。

協定校等に限った留学(送り出し)を一部再開

本学では、感染症危険情報レベル2以上の国・地域への渡航を一律に禁止するという方針をとってきましたが、国内外でワクチン接種が進んできたことや、文部科学省から大学間交流協定等に基づく海外留学プログラム等について、学生の安全確保に万全を期することを前提として再開を認める通達があったことをふまえ、留学(送り出し)一部再開にかかる新たな方針を2021年7月に策定しました。この方針により、国や地域の感染状況・感染防止策を十分に把握でき、学生への支援体制を取ることが可能な協定校等への留学(官民協働海外留学支援制度を含む)は、渡航先が外務省感染症危険情報レベル2以上であっても、個別の事情を考慮して判断することになりました。個々の協定校の状況を確認したうえで、2021年度秋出発より留学プログラムを一部再開しています。



※9月15日現在

新たにオンライン留学制度を整備

協定校が実施するオンラインでの短期語学プログラム(3～8週間程度)を新たに整備しました。海外渡航が解除されても、日本で学ぶことを希望する学生や理系学部の研究や課外活動などで時間的に制限のある学生にとっての新たな選択肢として期待されています。また、エリアスタディーズや海外語学講座も渡航ができない代替措置としてオンラインで実施しています。

ダブルディグリープログラム

経済学部では2020年度より、ウィバーバ州立大学(アメリカ)とのダブルディグリープログラムを開始しました。このプログラムでは、1～2年次は本学で学修し、3年次から同大学に留学することになります。プログラムを修了し所定の要件を満たせば、本学と同大学の両方で学士の学位を取得することができます。



オンラインでのイベントも充実

日本語Café	Professor's Café
協定校の学生と日本語を使ってゲームや日本文化を紹介するなどオンライン交流会を実施。	海外経験のある学部教員が「学部」×「グローバル」をテーマに自身の経験を語るトークイベント。
グローバル★ツナガルCafé	ランゲージパートナー / Language Chat
グローバルな舞台で活躍するゲストスピーカーをオンラインで招待し、学生の将来やキャリアのヒントを探るきっかけの場を提供。	甲南大生と留学生がペアになり、言語や文化を教え合い、交流するプログラム。コロナ禍においてはオンラインで実施。
LOFT English Camp	KU International Student Workshop
ミシガン州立大学連合日本センター協力のもと、午前はアメリカ人学生との交流、午後は英語力UPのアクティビティに取り組む3日間のオンライン英語合宿。	甲南大生と協定校の学生がGlobal Citizenshipをテーマに意見交換し、お互いの考え方や経験を共有することで異文化理解力を育むワークショップ。

コロナ禍においても海外との交流を絶やさず、気軽に楽しめる国際交流を継続実施

国際交流の拠点「グローバルゾーンPorte」で実施している「LOFTアクティビティ」は英語を使ってゲームをしたり、先輩学生の英語でのプレゼンテーションを聞いたりして楽しく英語に触れる機会です。留学生はチューター、甲南大生はアシスタントとして学生をサポートしています。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、日本で学ぶ留学生や現地で学ぶ留学生が途中帰国を余儀なくされたほか、緊急事態宣言下で学内への立ち入りが制限されるなど難しい状況でしたが、すぐさまオンラインでの実施に切り替え、2020年度は2708名が参加しました。ネイティブ教員や留学経験者、語学に堪能な学生らが国際交流の場を支えています。





コロナ禍でも環境に左右されず、意欲的に交流に取り組む

予定していた留学を断念せざるを得ない状況においても
意欲的に海外と交流する学生たち。その中から2人の国際交流の経験を紹介します。

[発見と学びの連続。ライブ授業とグループワークで異文化交流]

月曜から金曜まで、想像以上に濃密だったオンライン留学

2021年6月、ブリティッシュコロンビア大学付属語学学校にオンライン留学しました。受講期間は4週間。月曜から金曜の午前中、現地の先生によるライブ授業を受け、中国などの留学生と一緒にグループワークを重ねました。Zoomのブレイクアウトルームという機能を用いてグループ別にディスカッションするのですが、まるでリアルな授業のように、先

経営学の学びと留学を両立できる恵まれた環境に魅力を感じて

お金の流れを通じて社会の仕組みを知りたいと考え、経営学を専攻しました。甲南大学のGB（グローバルビジネス）コースは、ビジネスを多角的に学びながら海外の協定大学に留学できる点、他にない魅力です。実践的な英語力を養う科目も多く、1年次から目標に向けて着実に学び進めてきました。しかし2020年春、カナダのビクトリア大学に留学する直前、新型コロナウイルス感染症の流行により留学はキャンセルに。この日のために入念な準備をしていただけにショックを受けましたが、次第に「せっかくの機会だ。自分を見つめなおそう」と前向きに考えるようになりました。企業説明会に参加するなど就職活動も本格的にスタート。業界研究や自己分析を通じて自分が本当にやりたいことは何かを探り始めました。

異文化交流の学びを生かし、提案力のある営業職へ

卒業後は、第一志望の自動車ディーラーで営業を担当します。私にとって自動車は、家族や友人と過ごした大切な時間の象徴であり、幸せな記憶そのもの。そんな自分自身の大切な思い出を土台に、商品としての車を売るのではなく、一人ひとりのお客様に「車のある豊かな暮らし」を提案するのが目標です。オンライン留学という異文化交流を通じて、先入観をもたずに他者の意見に耳を傾ける姿勢や自分の気持ちを伝えようとする情熱の大切さを学びました。このかけがえのない経験を営業という仕事やこれからの人生に生かしたいと思っています。

[オンライン学習ならではの成長も。卒業後は、台湾の大学院へ]

1年次から学内留学を満喫。視野を広げ、語学力を養う

入学以来、グローバルゾーン・ポर्ट（ポルト）を活用し、学内で国際交流を楽しんできました。1年次の後期には、先輩に勧められてLOFTアシスタントとしての活動をスタート。留学生チューターと学生のコミュニケーションをサポートする役割を担い、英語による日常会話やプレゼンテーションに繰り返し挑戦しました。おかげで実践的な英語力が身につく、海外からの留学生とも物怖じすることなく会話が楽しめるようになったと思います。台湾の留学生と出会ったのも、この場所でした。一緒に授業を受け、休み時間を過ごすうちに仲良くなり、その友情は今も続いています。2年次の夏には、台湾の大学でのサマーキャンプにも参加。第二外国語の中国語を学ぶモチベーションが高まり、台湾についてさらに深く知るために留学を決意しました。

海外の学生とオンラインで学び、議論やプレゼンテーションを経験

ところが、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、3年次での台湾への交換留学は中止になってしまいました。楽しみにしていただけにがっかりしましたが、気持ちを切り替えて国際交流科目「ジャパニスタディーズ（Joint Seminar）」をオンライン受講することに。授業はすべて英語で行われ、協定校の学生とともに学びました。江戸時代の

自給自足生活をテーマに研究・発表し、アメリカやイギリスなど海外協定校のプログラム参加生とディスカッションを重ねた時間は、想像以上に有意義なものになりました。さらに、中断していたLOFTアシスタントの活動もオンライン形式で再開。先生と私たちアシスタントが一組になり、英語でプレゼンテーションをした後、参加学生たちと日常会話のやりとりを行っていました。実際に顔を合わせない分、参加者の発言を引き出す質問を心掛けたり、伝わりやすい表現を工夫したりとコミュニケーション力を養う機会になりました。LOFTアシスタント同士も綿密なミーティングを通じてチームワークが向上するなど、オンラインだからこそ成長も実感しています。

台湾の大学院で言語学を研究。日英中のことばに通ずる人に

2021年も新型コロナウイルス感染症の流行は終息せず、4年次での交換留学も叶いませんでした。残念ですが、オンラインで国際交流活動を行いながら将来をじっくり考えることができたプラスに考えています。卒業後は、台湾の大学院に進学し、言語学を研究する予定です。この4年間、学科の専門的な授業とLOFTアシスタントとしての活動を通じて英語力をしっかりと養いました。台湾の大学院でさらに学びを深め、日本語を含む3言語をマスターして将来の土台を築きます。



経営学部 経営学科 4年次

はらだ りな

原田 莉奈さん

オンライン留学
ブリティッシュコロンビア大学
付属語学学校文学部
英語英米文学科 4年次きつない まいが
橘内 毎歌さん国際交流科目
ジャパニスタディーズ
(Joint Seminar)
オンライン受講